

Salarm: 人力目覚まし時計を介したソーシャルネットワークイン グシステム

中藤貴之* 中西泰人† 服部隆志‡ 萩野達也§

概要

本論文では「約束のプラットフォーム」という新しいコミュニティ支援メディアのモデルを提示する。それは約束の連鎖を通じて貸し借り、手伝いといった、個人間の信頼に基づく経済活動を活性化させるモデルである。さらに、このモデルの応用例である“Salarm”システムを紹介する。Salarmは目覚ましの約束を通じて起こす、起こされるという関係を連続的に作り出すシステムである。

1 目的とその背景

本研究の目標は貸し借り、手伝いといった個人間の信頼に基づく経済活動を活発にすることである。その背景には、情報通信技術 (IT) の発展にともなうネットワーク的な情報流通がある。とりわけソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) の登場は、個人間の信頼に基づいた情報交換を活発にした。私たちは、情報資源だけではなく物的資源や労働資源も IT の支援によりネットワーク的に流通するであろう、という将来像を持っている。そこで本研究の目的は、個人間の信頼に基づく経済活動を支援する情報システムの構築となる。

2 手法

本研究では個人間の信頼に基づく経済活動の活性化のために、約束活動を支援するという手法をとる。本研究においては約束という概念を次のように定義する。約束とは2者間の言葉のやりとりであって、約束当事者間の信頼が当事者の将来の行為に対して一定の拘束を与えるものである。個人間の信頼に基づく経済活動において約束は本質

的な原因となっている。たとえば貸し借りにおいては、「借りるよ。一週間後に返すよ」、「いいよ」といったやりとりが必ず先に立ち、それが貸す側と借りる側の信頼関係によって行為の原動力となる。したがって約束を支援することは経済活動の支援に結びつくであろうと考える。

3 既存のメディアにおける約束

次に、既存のコミュニティ支援メディアを約束という視点から分析することによって、本研究の位置づけを行う。

3.1 SNS

SNSは信頼関係の登録という約束を通じて、ユーザ間の半永久的な情報流通を拘束するメディアであると言える。既存のSNSの問題は、新しい信頼関係が生まれにくい点である。その原因は既存のSNSが信頼関係というものを固定的に捉えているからだと考える。そこでこの問題の解決には、信頼関係を交換行為を通じて生まれる動的な関係と捉えることが有効である。

3.2 ソーシャル・ブックマーク

約束の前提となるのは、他の人々がどのような資源を持っているかという知識である。ソーシャル・ブックマーク (SB) は他人の所有資源を可視化することによって新しい約束を誘発するメディアであると言える。既存のSBの問題は、不必要な

* 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科, takayuki@sfc.keio.ac.jp

† 慶應義塾大学 環境情報学部, naka@sfc.keio.ac.jp

‡ 慶應義塾大学 環境情報学部, hattori@sfc.keio.ac.jp

§ 慶應義塾大学 環境情報学部, hagino@sfc.keio.ac.jp

情報が多く発生する点である。その原因は既存のSBでは、資源情報の登録基準が所有者だけにあるからだと考える。そこで、この問題の解決には情報登録の基準を周囲の人に渡すことが有効である。

3.3 スケジュール管理システム

スケジュール管理システムは、ユーザ自身あるいはグループ自身と約束をすることによって自らの将来の行動を規定するメディアであると言える。既存のシステムの問題は、新しいコラボレーションを生み出すことができない点である。その原因は既存のシステムでは、約束する相手が個人内あるいはグループ内で閉じているからだと考える。そこで、この問題の解決にはネットワーク内の任意の個人間での約束を可能とすることが有効である。

4 モデル設計

既存のメディアに対する以上の議論をふまえて、約束活動を活性化するメディアのモデルを設計する。本研究ではこのモデルを「約束のプラットフォーム」と名付ける。これは、約束の仲介をもとに約束証を発行し、さらにその約束証を可視化することによって約束の連鎖を生み出すモデルである。以下、各部分を詳しく設計する。

4.1 約束の仲介

約束は2者間のメッセージのやりとりである。以下、BがAを起こす、という手伝いのケースを説明する。まずAがBへ申込（「明朝7時に電話で起こしてくれますか」）を行う。Bは申込に対してAに受諾（「いいよ」）あるいは拒絶（「だめ」）の返答を行う。メディアは以上のメッセージ交換を管理、監視する。

4.2 約束証の発行

もしBがAの申込に対して受諾すれば、約束は成立である。約束が成立したとき、メディアは申込の内容を約束証として保存する（「BがAを明朝7時に起こす」）。

4.3 約束証の可視化

約束の観察が新しい約束のインセンティブになるということがしばしばある。今のケースで言えば、BがAを起こす約束をCが観察し、それが

刺激となって今度はCもBから起こしてもらう約束を結ぶ、という場合がある。「約束のプラットフォーム」では、すべてのユーザは任意の約束証を閲覧できる。さらに、すべてのユーザは閲覧した約束証の当事者に対して新しい約束の申込を行うことができる（CがBに対して「明朝7時15分に起こしてくれますか」）。

5 モデルの応用システム

「約束のプラットフォーム」を応用したシステムであるSalarmを紹介する。Salarmは人の手を介して起こしあう目覚ましネットワークシステムである。現在、起床の支援には機械を用いるのが一般的である。しかし、機械に起こされるよりも知り合いに起こしてもらう方が確実かつ快適な目覚めを実現できると考える。そのためには、自分よりも早く起床している知り合いを見つけるシステムが必要となる。そこで、目覚ましの約束を可視化することにより、起こす、起こされるという関係の連鎖を生み出すシステムとしてSalarmを提案する。具体的なケースは上で説明した通りである。

また、「約束のプラットフォーム」は汎用的な基盤であり、Salarmの他にも様々な応用例を作ることができる。例えば物の貸し借り、組合の結成、共同購入、委託、物の預かりなどを支援するシステムが実現可能である。

6 まとめと今後の課題

以上見たように、本研究では約束という概念に注目し、約束の連鎖を通じて個人間の信頼に基づいた経済活動を活性化させるモデルを提示した。今後の研究では、このモデルの有効性を実証することが課題となる。具体的な作業は、Salarmシステムを設計および実装し、信頼構築と資源交換のサイクルが作り出されるかどうかを検証することである。